

「研究データエコシステム東海コンソーシアム」 のこれまで(とこれから)

青木 学聡 (名古屋大学)

2025.12.1

大学ICT推進協議会 2025年度 年次大会 RDM部会企画セッション



青木学聡, 松原茂樹

「大学での研究データマネジメント環境整備の検討
—AXIES RDM 部会の活動を通じて」

学術情報処理研究(JACN), 第29巻(2025年, 最新号)

https://doi.org/10.24669/jacn.29_0046

RDM部会の活動レビュー

- 「部会設置」「提言」「ガイドライン」「アンケート」
「情報基盤スタッフ向け教材」「事例集出版」の経緯

研究データエコシステム構築事業「本体」

研究データ基盤高度化チーム

NII Research Data Cloudを
7つの側面から機能拡張

NII リーダ機関

研究データ基盤の機能実装

活用

コード付帯機能

データ・プログラム・解析環境の
パッケージ化と流通機能を提供し、
研究成果の再現性を飛躍的に向上

信頼

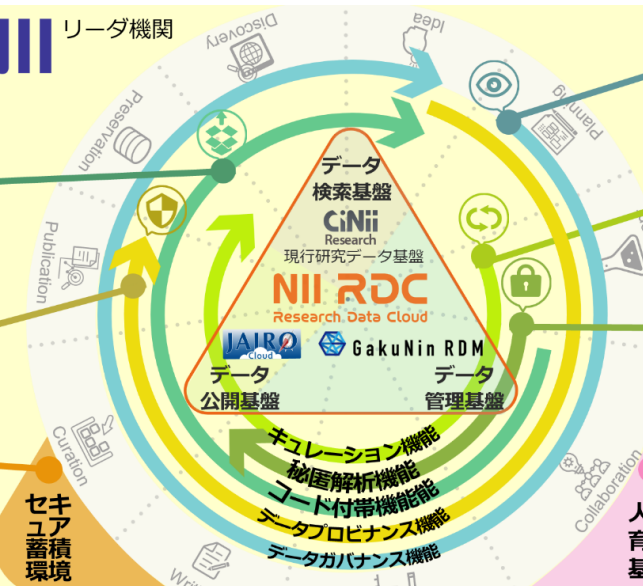
データプロビナンス機能

データの来歴情報の管理から利用
状況を把握でき、データ公開へ
のインセンティブモデルを提供

蓄積

セキュア蓄積環境

安全で強固なデータの保存・保護機
能を有する超鉄壁ストレージを提供
し、機微な情報も安心して保全



データガバナンス機能 管理

計画に基づきデータ管理等を機械
的に支援し、DMPをプロジェクト
管理に不可欠な仕組みへと変革

キュレーション機能 流通

専門的なキュレーションを実践
できるエコシステムを構築し、
データ再利用の促進に寄与

秘匿解析機能 保護

秘密計算技術で機微な情報も安心し
て解析できる環境の提供で、新しい
データ駆動型研究の世界を開拓

人材育成基盤 育成

RDMに必要なスキルを学ぶ環境
を提供し、全ての研究者を新しい
科学の実践者へと育成

2022年度～2026年度
(実働は2022.7～)

「ポリシー」を起点とし
た組織的なRDM体制構築

が主な取り組み

プラットフォーム連携チーム



理化学研究所

リーダー機関

- ・ 機関内サービス等とNII RDC
の連携機能の整理と設計
- ・ 計測機器等からの大量データ
を効果的に管理するための要件
整理と機能開発
- ・ 管理対象となるメタデータの
設計と実証
- ・ 関連する高度化機能との仕様
調整と共同開発

融合・活用開拓チーム



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

リーダー機関

- ・ 異なる分野間でのデータ活用
やデータ連携に発展する取り
組みを精査
- ・ 異なる分野間でのデータ活用
やデータ連携に関する具体的
なユースケースを創出
- ・ ユースケースをまとめたツ
ールキットの作成とそれを用い
た広報活動

ルール・ガイドライン整備チーム



名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

リーダー機関

- ・ 研究データの活用に適した機
械可読データの統一的な記述
ルール設計
- ・ 研究データの公開に必要な要
項や作業フローの整備
- ・ 研究データを適切に取扱うた
めの指針のまとめ
- ・ 学内整備のための事例形成

人材育成チーム



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

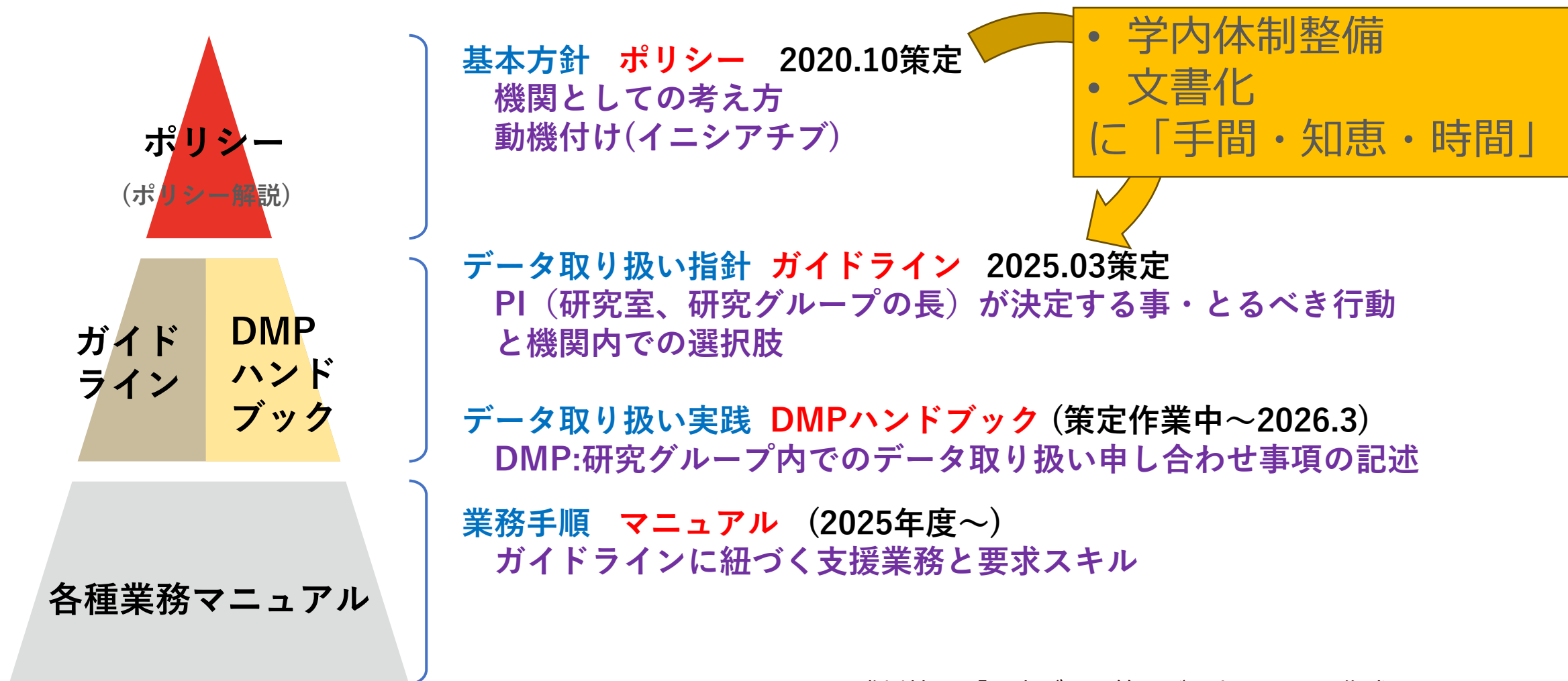
リーダー機関

- ・ 人材育成を主とした研究デ
ータ管理体制の構築を推し進め
る学内組織構築の事例形成
- ・ 研究データ管理人材に求めら
れる標準スキルに関する検討
- ・ 研究データ管理人材育成のた
めのカリキュラムの作成、オ
ンライン学習コースの整備

基盤の活用に係る環境整備

中核機関群の代表からなる運営委員会が全体を統括し研究データエコシステムの全国展開に向けて共同実施機関を随時拡大

「ポリシー」策定のその後 — 名古屋大学の場合



浅川槇子「研究データ管理ガイドラインの作成と展開」
(データエコ事業東海コンソ第9回セミナー, 2025.11.5)
より一部改変・補足

RDM支援 = 研究支援のど真ん中

- 2025年 **(もう終わってしまうが・・・)**
「データポリシー策定率100%」になると、
「機関は何ができるようになるか?」を提示する
- 名古屋大学での知見を参加機関で活用する
ただし、
 - 同じ時間・コストをかけてもらうわけにはいかない
 - そのままコピーでは血肉にならない

2023年12月

「研究データエコシステム東海コンソーシアム」発足

<https://rdm.nagoya-u.ac.jp/group/consortium/>

- 「ルール・ガイドライン」チームでの実践結果を共有・展開
- 2025年11月現在の加入状況: 37機関

連絡先筆頭の主な業務
(※事務局の推定)

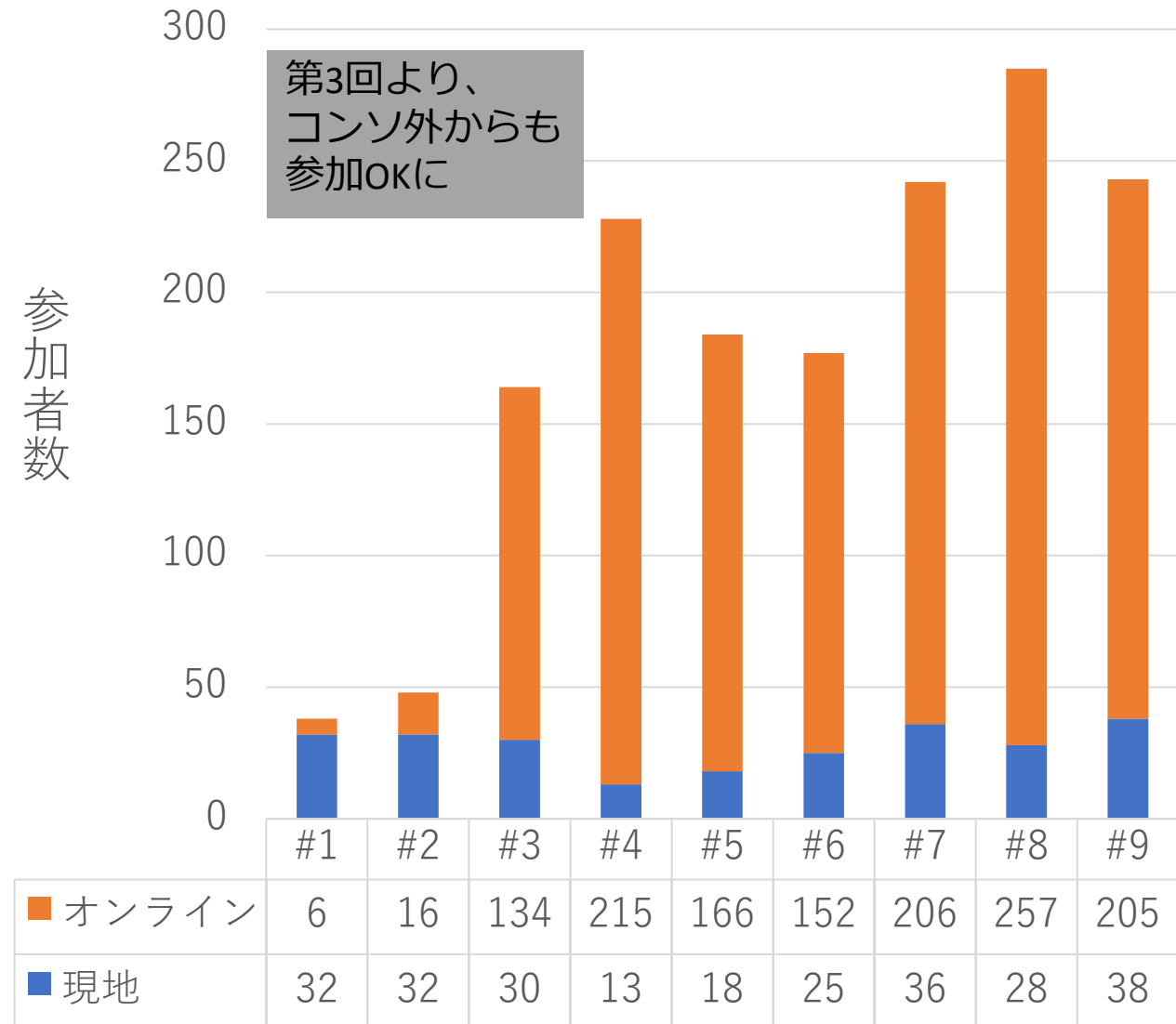
	正会員(大学・機関)	準会員(部署・研究所)	総計
図書	7	5	12
情報	8	7	15
研究推進 +その他	6	4	10
	21	16	37

コンソーシアム事業: セミナーの開催

<https://rdm.nagoya-u.ac.jp/html/event/>

- 第1回(2023.12.6):
キックオフ
国内外のRDM動向
- 第2回(2024.3.21):
ポリシー策定・実施
(機関・医療分野)
- 第3回(2024.6.7):
メタデータ
(機関リポジトリ・分野
毎)
- 第4回(2024.9.10):
DMP作成・研究者支援
- 第5回(2024.12.3):
NII RCOSとの対話
PIDエコシステム
- 第6回(2025.3.4):
データポリシー策定
- 第7回(2025.6.3):
国内RDM整備状況
レビュー
- 第8回(2025.9.9):
OA加速化事業の
インパクト
- 第9回(2025.11.5):
データエコ事業の
アウトリーチ
- 第10回(2026.3.3):
(計画中)

**いずれもセミナー後、会場限定で非公開意見
交換 → 「うまくいかないこと」の共有**



コンソーシアム事業: 機関毎のポリシー策定・組織運営支援

<https://rdm.nagoya-u.ac.jp/html/project/>

- データポリシー策定支援
 - Type-I: (日本国内で一般的となった)簡潔なポリシー本文と解説の策定
ポリシーに沿った「次の行動計画案」も含む
 - Type-II: 具体的施策としての「データ取り扱いガイドライン」等の策定
- 研究データ管理に関する調査・分析支援
 - RDM部会アンケートを基にした実施支援
 - 研究者の意識・実態調査、とともに機関としての考え方を伝える手段
- RDM業務手順書作成支援<即時オープンアクセス対応支援(2025年度新設)>
 - 各機関が実施する業務内容・要求される業務スキルの文書化
 - 「RDM業務標準化」に向けた試金石
- FD・SD研修支援
 - 講師派遣(今は名大から松原先生 or 青木のみだが・・・)

支援業務実績(2023.Q3 ~ 2025.Q3)

年度		ポリシー作成支援(タイプⅠ)	ポリシー策定支援(タイプⅡ)	アンケート実施支援	RDM業務支援	講師派遣支援	講演依頼
2023	3 Q			三重大学		三重大学	
	Q 4	三重大学 核融合科学研究所 豊橋技術科学大学		名古屋市立大学		名古屋市立大学 豊橋技術科学大学	
2024	1 Q		名古屋市立大学				
	Q 2	長岡技術科学大学 津市立三重短期大学					
	Q 3	愛知県立芸術大学 金城学院大学		津市立三重短期大学 愛知県立芸術大学			東北大学
	Q 4	藤田医科大学	三重大学 核融合科学研究所			朝日大学 三重大学	九州大学 はこだて未来大学
2025	1 Q					愛知教育大学	
	Q 2	藤田医科大学	愛知教育大学	和歌山大学	朝日大学	藤田医科大学	
			愛知工業大学		中京大学	静岡社会健康医学大学院大学	
			名古屋大学(糖鎖生命コア研究所) 名古屋大学(医学部)		名古屋大学	岐阜県立看護大学	
	Q 3	愛知学院大学	静岡社会健康医学大学院大学 金城学院大学 愛知県立芸術大学 朝日大学		愛知県立芸術大学	長岡技術科学大学	東北大学
	Q 4						
		10	10	5	4	10	4

「動き続ける」コンソーシアムであるためには?

- 「行動の原資(ヒト・モノ・カネ)」の問題、はあるとして・・・
- 大学個別の事情をくみ取り「信頼」と「行動力」を維持しなければならない
- 「RDM支援＝研究支援のど真ん中」というなら、課題は尽きない
 - 効果的・安全な「研究者の活動」・「研究データ管理」支援体制の実現・充実に向け適切な「ゴール・課題・アクション」の設定
- 大学個別に「フルセット」の支援体制なんて作れない
機関間での「資源の共有・プラットフォーム化 & AI活用」が今後のカギ
 - 研究データ・プロジェクトマネジメント:
PI伴走者の技能高度化－シニアURAから研究補佐員まで
 - ポリシー整備: 大学運営・制度設計へのアドボカーション
 - 情報基盤: GRDMやJAIRO CLOUD, 関連する情報基盤の安定運用
 - 大学業務: 業務設計、業務知識の定型化とDX&AI支援